

話題のニュートラック新製品情報・新情報

コンクリートポンプ…極東開発

## 39メートル級ブームと閉回路方式油圧システムを搭載 国内最高ブーム長と吐出量の新型「ピストンクリート」発売

極東開発工業(株)は、このたび国内最長(国内法規を満たした公道走行可能車両)となる39メートル級のブームと、国内最大の吐出量を実現した閉回路方式油圧システムを採用したコンクリートポンプ車「ピストンクリート PY165-39」を開発し、2017年10月17日に発売した。

新機種は、それぞれ新開発となる39メートル級のRZ型5段屈折ブームと、最大吐出量165m<sup>3</sup>/hの閉回路方式採用の油圧システムを、GVW25トン車に搭載したピストン式コンクリートポンプ車で、同社史上最長(国内市場向け)かつ最高性能を誇る車両である。また、多くの部位に高張力鋼板を採用し強度を保ちながら軽量化を実現したほか、稼働状況等を表示するディスプレイシステムも装備し、より安全かつ効率的な作業に寄与する機種となっている。

国産コンクリートポンプ車の先駆けとなる「PC80型」を昭和41年に発売以来、50年を超える国内トップメーカーとしてのノウハウと技術力を高次元で融合した極東開発の新しいフラッグシップモデルとなる。

希望小売価格(消費税抜き・シャシ価格込み)は9,500万円で、販売目標台数は20台/年としている。

### ■「ピストンクリート RPY165-39」の特長

#### (1) 国内最長の39メートル級RZ型5段屈折ブーム

ブーム形状及び配管レイアウトの工夫と、車両全体のコンパクト化・重量バランスの最適化により、国内法規を満たした公道走行可能車両として国内最長となる39メートル級の最新開発RZ型5段屈折ブームを採用。また、ブーム屈折部のリンク構造を大きく変更し、高い強度を保ちながらブームのスリム化を図ることで大幅な軽量化も図っている。

#### (2) 国内最高クラスの最大吐出量を実現した閉回路方式油圧システム

油圧システムに、新開発の「閉回路方式」を採用する事で、国内最大の吐出量165m<sup>3</sup>/hを実現。メインシリンダの切換え時の応答性を向上させ、大吐出量と衝撃・騒音の抑制を両立させたほか、メイン回路の切換えバル

ブをなくしたシンプルな回路構成の実現により軽量化にも貢献している。

#### (3) 縦型PTOと大型油圧ポンプ

縦型PTOを採用することで大型油圧ポンプの搭載を可能にし、効率的な油圧システムを実現したほか、PTOの切換えはエアコントロール式とし、操作性も向上。また、メインシリンダのピストン位置に合わせて最適な油圧制御を行い、衝撃やストローク変化を抑制し安定した打設を可能とした。

#### (4) 主要部位に高張力鋼板を採用

ブームをはじめ旋回台、アウトリガまで、多くの部位に高張力鋼板を採用。これにより強度を保ちながら軽量化を実現させている。

#### (5) ブームやポンプの設定・稼働状況の表示が可能なディスプレイシステム

ブームやポンプの設定・稼働状況等を表示するディスプレイシステムを採用。状況に応じて変更することが可能な吐出圧と吐出量の上限設定機能により、現場におけるより安全かつ効率的な作業に貢献する。



国内最高ブーム長と吐出量の新型「ピストンクリート PY165-39」



39メートル級RZ型5段屈折ブーム(左)とブーム屈折部リンク(右)

閉回路方式の油圧システムを採用



縦型PTOと大型油圧ポンプ



稼働状況を表示するディスプレイシステム



主要部位には高張力鋼板が採用されている

話題のニュートラック新製品情報・新情報

軽商用車…TOYOTA

## 軽商用車初の衝突回避支援システム搭載など 「ピクシス」のバンとトラックを改良

TOYOTAは、「ピクシスバン」をマイナーチェンジ、「ピクシストラック」を一部改良し、全国のトヨタカーラード、ネットショップおよび、軽自動車市場比率の高い地域で取扱希望のあった一部のトヨタ店、トヨペット店を通じて、2017年11月14日に発売した。

軽四輪「ピクシスバン」は、先進安全機能を進化させた衝突回避支援システム「スマートアシストIII」を新たに設定(AT車)し、軽商用車としては初となる、歩行者も検知対象とする緊急ブレーキ機能や夜間での歩行者の早期発見に貢献するオートハイビームなどを搭載、さらに、縦列駐車時など左右後方の障害物をブザー音で知らせるリヤコーナーセンサーや、走行中に強くブレーキを踏んだ場合、同時にハザードランプが点灯するエマージェンシーストップシグナル、登り坂でブレーキからアクセルに踏み替える際、クルマの後退軽減に貢献するヒルホールドシステム(AT車)など、安全装備および利便装備を充実させた。また、アイドリングストップを全車標準装備し、

2WD車で17.8km/Lと燃費を向上させた。

デザインは、ヘッドランプやフロント/リヤバンパーの意匠変更に加え、LEDランプをオプション設定(LEDパック)する



ピクシスバン デラックス「SA III」(2WD)プライシルバーメタリック



ピクシスバン デラックス“SAⅢ” (2WD) プライドシルバーメタリック

など、よりシャープな印象とし、内装はブラック基調で質感を向上させた。外板色は、7色に拡大し、うち5色にドアアウターハンドルやコーナーピースの色をボディカラーと同色にできる「カラーパック」をオプション設定した。

また、「ピクシストラック」は、これまでオプション設定としていた人気の外板色「ブライツシルバーメタリック」を標準設定。オプションの「カラーパック」には、ファインミントメタリックを追加した。また、LEDヘッドランプの設定を追加するなど、仕事の

パートナーとしての機能性を確保しつつ様々なユーザーの好みに応える装備を用意した。

メーカー希望小売価格(消費税込/北海道のみ価格が異なる)は、バンがスペシャル2WD・5MTの934,200円から“SAⅢ”4WD・4ATの1,495,800円まで、トラックが“エアコン・パワステレス”2WD・5MTの680,400円からエクストラ4WD・4ATの1,225,800円まで。トラックの“農用スペシャル”4WD・5MTは1,009,800円となっている。



ピクシストラック タンダード“農用スペシャル” (4WD)

## 話題のニュートラック新製品情報・新情報

## 仕様向上…日産自動車

### 助手席SRSエアバッグの全グレード標準設定など「NT100クリッパー」の仕様を向上

日産自動車(株)は、軽四輪トラック「NT100クリッパー」の仕様向上を行い、2017年11月24日に発売した。

「NT100クリッパー」は、2013年のフルモデルチェンジ以降、高い燃費性能と抜群の使い勝手から、ビジネスを強力にサポートする軽トラックとしてユーザーから好評を得ている。今回の仕様向上では、これまで「GX」グレードに標準設定していた、「助手席SRSエ



NT100クリッパー DX (4WD 5MT)



荷台積載効率に優れたNT100クリッパー

アバッグシステム」、「助手席プリテンショナーシートベルト」、「ABS(アンチロックブレーキシステム)」を全グレード標準設定へと拡大。また、「電源ソケット」を全グレードで標準設定するとともに、「グローブボックス」の容量増加により、利便性を向上させている。なお、「NT100クリッパー」は、スズキ(株)のOEM供給車になる。



NT100クリッパーの運転

## 話題のニュートラック新製品情報・新情報

## 油圧フォークリフト…コマツ

### 建設機械の油圧制御技術などを随所に織り込んだオフロード法適合の油圧駆動式フォークリフト新発売

コマツは、建設機械で培ってきた油圧・制御技術を随所に織り込み、オフロード法2014年基準に適合した油圧駆動式の新型フォークリフト「FH100-1」「FH120-1」「FH135-1」「FH160-1」を2017年11月1日に発売した。

新発売の4機種は、NOx(窒素酸化物)とPM(粒子状物質)の排出量を大幅に低減し、特定特殊自動車排出ガス2014年基準をクリアした新世代エンジンを新たに搭載。FHシリーズの特徴である油圧駆動式トランスミッション「電子制御HST(Hydro-Static Transmission)」、エンジン出力を無駄なく活用する油圧システム「可変ポンプCLSS(Closed-center Load Sensing System)」、また、それらを高度に制御するコントロールシステムを採用することにより、高負荷作業時における燃料消費量を同社従来機(トルクコンバータ方式車両)に比べ最大30%低減させている。

また、機械稼働管理システム「KOMTRAX」を標準搭載し、ユーザーの車両管理業務を幅広くサポートする。さらに、車両モニタには鮮明で見やすいフルカラーマルチモニタを採用し、エコゲージ等の表示により省エネ運転のサポートも行っている。

販売目標は80台/年(国内のみ、4機種合計)で、公表価格は、FH100-1(10.0t車)・19,000千円、FH120-1(12.0t車)・20,100千円、FH135-1(13.5t車)・21,250千円、FH160-1(16.0t車)・22,550千円、となっている。

#### ■主な商品の特長

##### (1) 環境、経済性

・特定特殊自動車排出ガス2014年基準適合車…コマツが



建機油圧制御技術などを取り入れたコマツの油圧駆動式フォークリフト

長年積み重ねてきた独自のエンジンテクノロジーを結集し、新たに開発した新世代エンジンを搭載。コマツディーゼル酸化触媒(KDOC)と選択触媒還元(SCR)を組み合わせNOxとPMを大幅に低減する新たな排出ガス後処理システムの採用により、特定特殊自動車排出ガス2014年基準をクリア。

- ・高負荷作業時の燃料消費量・最大30%低減
- ・油圧駆動式トランスミッション「電子制御HST」、エンジン出力を無駄なく活用する油圧システム「可変ポンプCLSS」、また、それらを高度に制御するコントロールシステムにより、燃料消費量を同社従来機(トルクコンバータ方式車両)に比べ最大30%低減させている。さらに、エンジンを掛けたまま駐車すると一定時間の経過でエンジンが自動停止するオートエンジンストップ機能により、無駄な燃料消費を抑える。

## (2) 安全性、作業性

- ・車速制限機能、シートベルト未装着警告機能…工場内などで決められた制限速度を守るために、最高速度を4段階に設定可能。また、シートベルト未装着のオペレーターに注意を促す警告機能も装備されており、安全性の向上に貢献。
- ・後輪切れ角ゲージ…後輪タイヤの向きをモニタに表示。ハンドルが切れていることが分かり、車両を安全に動かすことができる。

- ・電子制御HSTによる操作性の向上…電子制御HSTの採用により、前後進レバーを切り替えてもショックが発生しないこと、また坂道でのずり下がりが少なく、微速走行が容易になるなど、操作性が向上しておりオペレーターの疲労軽減と安全作業に貢献。

## (3) ICT

- ・フリート遠隔管理と現場改善を支援するKOMTRAX標準搭載…KOMTRAXは、位置情報、稼働状況に加え、燃料消費量などの情報をユーザーに提供し、日々の稼働状況の「見

える化」を実現。ユーザーが常にベストコンディションで使用できるよう、きめ細かくサポートを実施。

- ・車両の稼働状況を一目で把握…カラーマルチモニタを搭載し、走行速度や平均燃費、簡易荷重計など車両の状況を一目で把握でき、さらにボタン操作により稼働時間、燃料消費量などさまざまな情報も確認することができる。また、車速制限などの設定も容易に行うことができる。



コマツ油圧駆動式フォークリフトのポスター

コマツ油圧駆動式フォークリフトの主要諸元

		FH100-1	FH120-1	FH135-1	FH160-1
車両質量	kg	13,960	15,540	16,720	18,500
定格出力ネット (JIS D0006-1)	kW/min <sup>-1</sup> (PS/rpm)	100/2,200 (136/2,200)			
エンジン名称		SAA4D107E-3-A			
最大荷重	kg	10,000	12,000	13,500	16,000
荷重中心	mm	600			
最大揚高	mm	3,000			
全長	mm	5,650	5,670	5,930	5,940
全幅	mm	2,430			
全高(ヘッドガード)	mm	2,880	2,900	2,910	2,930
軸距(ホイールベース)	mm	3,050			
走行速度(無負荷時)	km/h	25	26	23	

## 話題のニュートラック新製品情報・新情報

## グッドデザイン賞…日野自動車

# 大型「日野プロフィア」と中型「日野レンジャー」が2017年度グッドデザイン賞を受賞

日野自動車(株)の大型トラック「日野プロフィア」と中型トラック「日野レンジャー」が「2017年度グッドデザイン賞」を受賞した。さらに、「日野プロフィア」は、審査委員会から特に高い評価を得た製品に贈られる「グッドデザイン・ベスト100」に選出された。

「日野プロフィア」は14年ぶり、「日野レンジャー」は16年ぶりのフルモデルチェンジを果たし、今年発売されている。い

ずれもエクステリアデザインとインテリアデザインを一新し、洗練されたスタイルとドライバーを第一に考えた高い居住性を実現。さらに、安全装備の拡充に加え、エンジンのダウンサイジングで燃費も向上し、「ドライバーが誇りを持って、安心して乗れるトラック」となっている。

今回の受賞は、このような新型「日野プロフィア」「日野レン

ジャー」の特長が高く評価されたもので、日野にとって2011年にフルモデルチェンジした小型トラック「日野デュトロ」以来6年ぶり、20回目と21回目のグッドデザイン賞受賞となった。

グッドデザイン賞は、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する総合的なデザインの推奨制度で、社会全体を豊かにする「よいデザイン」を顕彰している。グッドデザイン・ベスト100は、2017年度グッドデザイン賞受賞対象の中で、審査委員会により特に高い評価を得た100件に贈られる。

また、大型トラック「日野プロフィア」は「2017年度グッドデザイン金賞」も受賞した。「グッドデザイン金賞」は、2017年度に選ばれたすべてのグッドデザイン賞受賞対象の中で、特に優れたデザインと認めるものに贈られるもの。今回の金賞受賞は、日野にとって初めてとなる。

## ■日野プロフィア



グッドデザインのベスト100に選ばれ「金賞」を獲得した日野プロフィア

## 〈特長〉

- ・ドライバーが誇りを持てるような存在感のある革新的なスタイルと、ドライバーが生き生きと働けるインテリア。
- ・歩行者検知も可能なPCS、夜間の視認性向上に寄与する国内大型トラック初の可変配光型LEDヘッドランプ(オプション)など、安全装備の拡充。

- ・新型ダウンサイジングエンジンの採用による軽量化と燃費向上。

- ・車両情報通信によるICTサービス機能。

## 〈デザインのポイント〉

- ・外形：「革新」と「存在感」

- ・室内：「ドライバーがいきいきと働ける環境を」

## 〈評価コメント〉

ロジスティックスマobilリティの新たなベンチマークとなり得るデザインの方向性を示している。エクステリアでは明確なブランドイメージ表現と細部への空気抵抗低減の工夫が図られ、インテリアでは乗員の操作性、視認性、室内移動性、快適性

と疲労軽減、これらを質感の高い仕上げとCMFでまとめている。輸送機器として重要な安全対策として衝突回避システムの導入、環境面では軽量化による燃費改善が図られ、前モデルからの着実な進化が見られる。フロントの外装構成はユーザーに配慮したアクセサリ装着前提の分割。乗員が誇りをもって仕事に臨めるデザインを細部まで追求した姿勢と成果を高く評価した。

## ■日野レンジャー

## 〈特長〉

- ・ドライバーが乗りたくなるような躍動感あふれるスタイルに街との調和も意識したデザイン、ドライバーの快適性を追求したインテリア。

- ・日野プロフィア同等の安全装備を標準化。PCS、ふらつき警報、ドライバーモニターなど、中型トラック初となる装備も多数搭載。

- ・新型ダウンサイジングエンジンの採用による軽量化と燃費向上。低馬力仕様では、ユーザーの利便性のために尿素フリーで「平成28年排出ガス規制」に適合。

- ・車両情報通信によるICTサービス機能。

## 〈デザインのポイント〉

- ・外形：「先進と躍動」「街との調和」

- ・室内：「機能と快適へのこだわり」

## 〈評価コメント〉

フロントビューは明確なブランドイメージが表現されている。長距離移動における機能性が要求されるインテリアデザインでは随所に操作性、視認

性、室内移動性、快適性と疲労軽減への工夫が図られ、CMFによる質感高い仕上げで丁寧なまとめた点を評価したい。輸送機器として重要な安全対策では衝突回避システムの導入、車両情報通信機能によるメンテナンス性向上など前モデルから着実な進化が見られる。



「2017年度グッドデザイン賞」受賞の日野レンジャー

## 2013年の「クエスター」の受賞以来4年ぶりに「クオン」「クローナー」がグッドデザイン賞を受賞

UDトラックスのフラッグシップ大型トラック「クオン」(Quon)」、ならびに新興国市場向け中型トラック「クローナー」(Croner)が、2017年度グッドデザイン賞を受賞した。UDトラックスとしては、2013年の「クエスター」(Quester)以来4年ぶり、通算8件、9件目の同賞受賞となる。受賞を契機に、トラックにおける「機能を支えるデザイン」の重要性をいっそう訴求し、ブランドイメージのさらなる向上に務めるとしている。

受賞にあたり、両車についての審査委員からの評価コメント(要約)は次の通り。

### ① 大型トラック「クオン」

- ・UDトラックスの商品に共通する6角形グリルを据えた顔は、ブランドとしての統一感が好ましく映る。
- ・無駄を省いた機能的な作りの運転席は、ドライバーのストレスを和らげている。
- ・運転手不足と高齢化が課題となっている日本市場を鑑み、フロアを低くして乗降性と下方視界確保に配慮されている。
- ・衝突被害軽減ブレーキ、ふらつき注意喚起装置などの安全運転に配慮した支援システムを搭載している。
- ・社会を支える車両としての立場を明確にしている。

### ② 中型トラック「クローナー」

- ・メンテナンス性の高い3分割構造バンパやグリル一体のフロントパネルが一体感ある優れたエクステリアデザインを実現している。
- ・販売国の使い方に配慮し、ドライブラインに余裕を持たせた。
- ・Euro 3/4の排ガス規制に対応しつつも高トルクによって燃費向上を実現している。

「クオン」、「クローナー」両車のデザインを担当した、UDトラックスのコンプリートビークル プロダクトデザイン白鳥敏雄ダイレクターは、「クオンは、そのコンセプト、「人を想い、先を駆ける」を体現する凛とした姿と、HMI(Human Machine Interface)を一新した質感あるドライバー空間、クローナーは、新興国のお客様のビジネスに貢献する機敏で信頼感ある中型トラックとしてふさわしい姿を目指しました。対象とするお客様やマーケットには違いがありますが、それぞれのニーズを的確にとらえ、両車とも日本のブランドであるUDトラックスのラインアップの一翼を担う商品としてふさわしいデザインに仕上がったと自負しています」と語った。

なおグッドデザイン賞は公益財団法人日本デザイン振興会が主催するもので、1957年創設のグッドデザイン商品選定制度を発端とする、日本唯一の総合的なデザイン評価・推奨の運動である。今日では国内外の多くの企業や団体などが参加する世界的なデザイン賞で、グッドデザイン賞受賞のシンボルである「Gマーク」は、すぐれたデザインを示すシンボルとして広く親しまれている。



UDトラックスの新興国市場向け中型トラック「クローナー」



UDトラックスのフラッグシップ大型トラック「クオン」

## ユーザー満足度向上と社員スキルアップ向上を目標に「2017年度カスタマーサービスコンテスト」を開催

三菱ふそうトラック・バス(株)(MFTBC)は2017年10月6日から2日間にわたり、同社喜連川研究所(栃木県さくら市)で「2017年度カスタマーサービスコンテスト」を開催した。

カスタマーサービスコンテストは、「お客様満足度の向上」を目指すべく、サービススタッフ・パーツスタッフのスキルアップとモチベーションアップを促し、ユーザーに「安心」を提供できる「サービス」や「整備力」および「提案力」の向上に繋げることを目的としている。

「サービス部門」競技は、全国の三菱ふそう販売会社及び三菱ふそう地域販売部門から選抜した24チーム(1チーム：フロントスタッフ1名、メカニック2名)、また「パーツ部門」競技は、全国部品営業の代表者17名が挑んだ。

「サービス部門」競技は、学科問題と実技競技との合計点で部門優勝を競い合った。実技競技では、今年5月にフルモデルチェンジ発売を開始した大型トラック「スーパーグレート」ダンプ仕様の設定で、制限時間内で車両不具合箇所を修復するとともに、ユーザーにとって最適なサービスを提案する点も必要とした競技内容で行われた。新開発の12段機械式自動トランスミッション「ShiftPilot(シフトパイロット)」、最新の安全装置、また運行管理システムの「Truckconnect(トラックコネクト)」についての理解とユーザーへの的確な説明が求められた。

「パーツ部門」競技は、ユーザーとの面談シーンを再現したロールプレイング競技を実施。ユーザーの悩み事やニーズを的確に把握し、適切な商品の提案が求められる内容とし、学科問題とスピーチ競技との合計点で部門優勝を目指した。本年度はフルモデルチェンジした大型トラックのみならず、新たに純正用品も数多く設定したため、これら新商品についての理

解度を計る設問に比重が置かれていた。

また、サービス・パーツ両スタッフの団結力ならびに会社としての一体感を狙い、「会社対抗戦」として所属販売地区または販売会社別に上位3社が表彰された。

### ■各賞の受賞者(敬称略)

〈サービス部門〉

・優勝…SC北日本 東北・北関東(2)(中川守、山田真、菊地寛)

・準優勝…SC東海・北陸(田中洋文、水谷充、杉本和夫)

・第3位…神奈川ふそう(高橋信也、平尾圭介、田頭一憲)

〈パーツ部門〉

・優勝…SC西日本 九州：藤本健太

・準優勝…豊橋ふそう：山岸裕紀

・第3位…SC南関東・甲信：山田秀雄

〈会社対抗戦〉

・優勝…SC東海・北陸

・準優勝…神奈川ふそう

・第3位…SC北日本 東北・北関東



パーツ部門優勝のSC西日本九州・藤本健太氏



サービス部門優勝のSC東北・北関東(2)チーム



会社対抗戦優勝のSC東海・北陸

話題のニュートラック新製品情報・新情報

国際大会…UDトラック

## UDトラックがエクストラマイルチャレンジを実施 シンガポールチームと南アフリカチームが総合優勝

UDトラック(株)は、世界各国のドライバーが競い合う国際大会、「エクストラマイルチャレンジ2017」最終戦を2017年11月7日、UDトラック本社敷地内のエクスペリエンスセンターで開催した。今年度は初めてクエスターとクオンの両車種に対象を広げ、昨年度よりも規模を大幅に拡大して開催された。クオンカテゴリーはセミトラクターを使用して競技が行われ、シンガポールチームが総合優勝、またクエスターカテゴリーは南アフリカチームが総合優勝した。

UDトラックが掲げる「Going the Extra Mile - その一歩先へ」というブランドプロミスに基づき開催する「エクストラマイルチャレンジ」は、ユーザーにUDトラックの製品とサービスを最大限に活用する方法を体感してもらいイベントで、始業点検、燃費効率・安全運転、そして操作性・駐車技術という3つの要素を通して、ドライバーの運転技術の向上、運営費およびダウンタイムの低減を目的としている。

各国を代表するドライバーは、実際の輸送サイクルを再現した種目で技能を競い合った。各種目では、収益、燃費効率、稼働率・メンテナンスコスト、そして安全運転を採点基準として競い合い、全輸送サイクルを通じて最高得点を獲得したチームが優勝となる。

今年の大会では、世界の6つの地域から7名のドライバーが予選を勝ち抜き、最終戦で競い合った。タイ、マレーシア、南アフリカ、インドネシアからはクエスターのドライバー、日本、南アフリカ、シンガポールからはクオンのドライバーが出場した。

クオンカテゴリーで総合優勝したシンガポールチームのドライバー、CWT Limited社のSeng Ann Neo氏は、「とても幸

せな気分です。30年のトラックドライバーの経験をすべて出せた結果だと思います。エクストラマイルチャレンジは、競技の他にドライバートレーニングもプログラムに含まれており、大変参考になりました。UDトラックのトラックに乗って1年半になりますが、このトレーニングではじめて知った事も多々ありました。次回はもっとタフなコースに挑戦したいです」と語った。

また、クエスターカテゴリー総合優勝チーム、RA Transport社のドライバー Lafras Kruger氏は、「とても興奮しています。日々の運行で心掛けている事をすべてこの大会で出す事が出来たと思います。大会のすべてが私にとって刺激となりました。次回もチャンスがあればぜひ参加したいと思います」と述べている。

UDトラックの村上吉弘社長は、エクストラマイルチャレンジはUDトラックの創業者である安達堅造の描いた「スマートロジスティクス」のビジョンから着想を得たイベントであると語り、「スマートロジスティクス」の実現のために「スマートトラック」と「スマートサービス」に加えて「スマートドライバー」の必要性があると強調した。

また、ブランドコミュニケーション&プロダクトの岸伸彦シニアバイスプレジデントは、エクストラマイルチャレンジの開催にあたり、「UDトラックは“One UD」として、異なる組織から様々な技術や経験を持つ従業員が一丸となって、お客様のためにさらに一歩先の貢献を行います。今後、大会を拡大させるために、グローバルファイナルへ続く地域大会を開催するマーケットの数を増やすとともに、新たなマーケットからの参加を歓迎します」と語っている。



「エクストラマイルチャレンジ2017」の参加者



世界各国のドライバーが競い合う国際大会

### ■エクストラマイルチャレンジ2017 結果

【クオンカテゴリー】

- ・総合優勝：シンガポールチーム (CWT Limited 社、ドライバー Seng Ann Neo 氏)
- ・最優秀始業点検賞：日本チーム
- ・最優秀運転技量賞：シンガポールチーム
- ・最優秀燃費効率賞：南アフリカチーム

【クエスターカテゴリー】

- ・総合優勝：南アフリカチーム (RA Transport 社、ドライバー Lafras Kruger 氏)
- ・最優秀始業点検賞：マレーシアチーム
- ・最優秀運転技量賞：タイチーム
- ・最優秀燃費効率賞：インドネシアチーム

話題のニュートラック新製品情報・新情報

車載端末…ヤマト運輸・日立製作所

## ヤマト運輸が全集配車両に新たな車載端末を搭載 運行データの利活用により安全運転教育の高度化を実現

ヤマトホールディングス傘下のヤマト運輸(株)は、ドライブレコーダーとデジタルタコグラフを一体化した通信機能搭載の新たな車載端末を、2018年11月より、ヤマト運輸の全集配車両約36,000台に順次搭載する。さらに、(株)日立製作所と連携し、運行データを幅広く効率的に収集・分析することにより、安全運転教育のさらなる高度化等に向けて取り組みを進める。

近年、IoT(Internet of Things)の進展に伴い、さまざまな機器からデータの取得が可能となり、これらのビッグデータを活用して、業務効率の向上や新たなビジネス機会の創出などの取り組みが加速している。

ヤマト運輸は、「安全第一、営業第二」の理念のもと、人命の尊重を最優先し、常に安全の達成に努めるため、2010年からヤマト運輸独自の車載端末「See-T Navi」を導入。運転状況の見える化を図るとともに、安全指導の専門職である安全指導長がセールスドライバー(SD)へきめ細かな安全教育等に取り組む中、最新のIoT技術を活用した安全教育のさらなる進化に向けて検討を続けている。

日立は、注力するIoTプラットフォーム「Lumada」の活用で培ったデータアナリティクスに関するノウハウや、人工知能技術 Hitachi AI Technologyなどを組み合わせ、企業のデータ利活用に向けた取り組みを支援している。

将来的には、車両の故障予兆

診断による整備計画の効率化、また、自治体や外部企業などとデータ連携し、例えば収集した道路状況のデータを利活用するなど、新たな高付加価値ビジネスの創出に向けて幅広く検討していくとしている。

### ■車載端末の特長

新たに搭載する車載端末は、従来デジタルタコグラフで収集していた速度や駐車位置情報などに加え、ドライブレコーダーで収集する走行映像やGPSアンテナから得た情報で作成する走行軌跡などの運行データをクラウド形態の情報基盤へ、通信回線を通じて自動かつリアルタイムに転送・蓄積する。また、ヒヤリハット体験箇所の登録の自動化や運転開始・終了設定の省力化、無線利用のOTA(Over The Air)の対応による車載端末のソフトウェア更新の自動化も実現し、SDがより安全運転に注力できるよう業務支援する。

ヤマト運輸は、日立と連携し、一元管理される運行データを可視化・分析することにより、安全指導長等がSDの運転特性をより具体的に把握し、一人ひとりの運転特性に応じた未然防止型の安全運転教育を実現するなど、安全・安心への取り組みをさらに強化することが可能となる。

なお、車載端末とシステムは、日立のグループ会社であるクラリオン(株)の先進車載技術を活用してヤマト運輸と日立が開発し、クラリオンが製造する形となる。



ヤマトの全集配車に採用される新端末システムのイメージ図

## 話題のニュートラック新製品情報・新情報

## レーン別渋滞情報…トヨタ自動車

### 東京都内500台のタクシーの走行画像データから得られる「レーン別渋滞情報」に関する実証実験を開始

トヨタ自動車(株)は、一般社団法人全国ハイヤー・タクシー連合会(東京都千代田区、川鍋一朗会長/全タク連)と、2017年4月に開始した実証実験の成果として、東京都で走行する500台のタクシー車両に搭載した通信型ドライブレコーダー「TransLog」から収集される「走行画像」や「車両データ」を解析し、その結果から得られる「レーン別渋滞情報」を、スマートフォン向けナビゲーションアプリ「TCスマホナビ」に配信するサービスを2018年春より開始する。

トヨタは、2002年に車載通信機(DCM)を実用化、2005年からレクサス車に標準搭載、及びトヨタ車にオプション搭載を開始し、エアバッグ作動時の緊急通報サービスや、ナビ地図データの自動更新、オペレーターサービス等を提供している。2011年からは、DCMから収集された走行データを用いた、ビッグデータ交通情報サービスを、「Tプローブ交通情報」として、純正ナビゲーションシステムやTCスマホナビに提供している。

今回、開発した「レーン別渋滞情報」は、更にそれを補完

するもので、「TransLog」から収集された「走行画像データ」を、AI(人工知能)を用いて解析することにより、車線ごとの混雑情報を提供するものである。これにより、従来の交通情報では、道路の区間単位でしか認識できなかった渋滞状況が、車線単位に認識でき、更には、その状態を画像でも確認できるようになる。

今回の実証サービスにおいて、情報の提供範囲は東京都心部でTCスマホナビのみからの利用となるが、ユーザーの利用状況や各種の技術的評価を行い、提供地域や利用できる情報端末を拡大することも検討していく。

また、タクシーの走行画像データからは、工事規制や事故車両の情報、路上の障害物、駐車場の満空状況や道路沿いの店舗の混雑状況など様々な情報が得られ、トヨタは、それらの情報をリアルタイムに抽出し、新たな交通情報サービスとして提供する開発を進めていくとしている。



レーン別渋滞情報のスマートフォン表示イメージ: 情報を表示可能な場所に近づくと、渋滞しているレーンを色で表示し、音声で知らせて、タップすると映像がポップアップする



工事規制レーン情報のスマートフォン表示イメージ: 情報を表示可能な場所に、工事中を示すマークが表示され、タップすると映像がポップアップする

## 話題のニュートラック新製品情報・新情報

## 工場投資…三菱ふそう

### 川崎工場に新たに118億円を投資 川崎工場第一敷統合で本社と生産設備の業務効率化を推進

三菱ふそうトラック・バス(株)(MFTBC)は、川崎工場第一敷地(神奈川県川崎市大倉町)に新たに約118億円の投資を行うと発表した。川崎地区3拠点に分かれている事業を

川崎工場第一敷地に集約し、本社、研究開発および設計機能を収容する「プロダクト・センター」を新たに建設する。また同時に、工場内の既存設備の大規模リニューアルも行う。

これにより、業務の効率化を図るとともに、従業員の働く環境を改善できることになる。

新社屋の建設を含む大規模工事は「Campus+(キャンパスプラス)」と呼ぶプロジェクトの一環で、三菱ふそうが推進するタイムラー・トラック・アジア(DTA)の成長戦略である「DTA ONE」の活動のひとつでもある。この戦略はProduct(製品)、Process(プロセス)、People(人材)の3つの柱から成り立ち、「Campus+」はProcess(プロセス)とPeople(人材)に焦点をあてた活動である。

「プロダクト・センター」は最先端の設備を備えた5階建て社屋で、オフィス空間の床面積は10,792㎡となる。2017年11月下旬から建設を始め、2018年末完成を予定している。その他、第一敷地内では従業員の業務効率向上のため既存設備のリニューアルが進められており、既に約5,300㎡が完了している。

MFTBCのマーク・リストセーヤ代表取締役社長 CEOは、「商用車メーカーとしての長年にわたる歴史と、電気トラックのフロントランナーを走る三菱ふそうは優秀で意欲的な従業員に支えられています。「Campus+」は、個人の能力を最大に引き出せる労働環境を作るための人材に対する投資です」と述べている。

MFTBCは、今後も川崎工場第一敷地の生産設備の拡張と近代化に多額の投資を続けていくとしている。2017年2月には、開発と生産機能の一部を担っていた川崎工場第二敷

地(神奈川県川崎市西加瀬)の売却契約を締結し、2019年までに全施設を第一敷地に移管をすべくプロジェクトを進めている。第二敷地の生産工程は第一敷地に建設する新工場に移管予定で、2018年末の生産開始を計画している。

新工場では「Factory of the Future(未来の工場)」のイニシアティブの下で、オートメーション、ロボティクスとITシステムに対し、インダストリー4.0への対応に向けての投資を行う。工場内の自動搬送機、次世代オートメーション、生産従事者を支援する作業ロボットの導入、および工場内外の全ての物流を管理するITシステムが含まれる。2018年までに24億円を投資し、生産効率を向上することで年間13億円のコスト削減を目指している。

MFTBCのスヴェン・グレイブル副社長兼生産本部長は、「川崎工場は三菱ふそうの主力工場です。工場の自動化、ロボティクス、ITシステムへの投資を通じて、生産効率を高め、製品品質を向上し、電気トラックの量産に備えます」と語っている。



2018年末に完成予定の新社屋「プロダクト・センター」予想図

## 話題のニュートラック新製品情報・新情報

## 客貨混載…ヤマト運輸・長良川鉄道

### 長良川鉄道とヤマト運輸が鉄道利用の「客貨混載」を開始 鉄道で宅急便を輸送する実証実験

ヤマトホールディングス傘下のヤマト運輸(株)と岐阜県の長良川鉄道(株)(日置敏明社長)は、2017年11月6日から11月17日までの間、岐阜県関市の関駅と郡上市の美並苺安駅の区間で、鉄道を利用した客貨混載の実証実験を行った。鉄道による客貨混載は中部地区では初の試みとなる。本実証実験の検証結果をふまえ、2018年早期に本格運用を開始する予定だ。

郡上市は岐阜県内で2番目に面積が広く人口密度が低い移動に時間がかかり、ヤマト運輸のセールスドライバー(SD)にとって大きな負担になっており、サービス品質を維持しながら集配の効率化

を図ることが課題となっていた。一方、長良川鉄道は、第三セクター鉄道として沿線住民の移動という生活の基本を守るとともに、観光振興等地域活性化の役割を担っており、地域のインフラとして路線を維持し続けるため、経営基盤の強化を進めている。



「客貨混載」の実証実験を行う長良川鉄道



長良川鉄道車内の宅急便スペース

このたび、ヤマト運輸と長良川鉄道は、鉄道を利用した客貨混載輸送の実証実験を行い、SDの労働環境の改善や環境負荷の軽減といった効果を検証し、2018年早期に無人での客貨混載の本格運用を目指すことになったもの。

実証実験の概要は、ヤマト運輸岐阜ベース(関市)から郡上支店(郡上市)間の幹線輸送の一部を、長良川鉄道の列車で代替輸送。実証実験の期間中、両社は、荷物の積み降ろし動線や輸送中の固定方法といった安全対策の検討やヤマト運輸のSDの労働環境の改善、また環境負荷の軽減といった効果を検証する。実証実験中は、駅や列車内における旅客等の安全確保のため、ヤマト運輸のスタッフが列車に同乗する。

## 話題のニュートラック新製品情報・新情報

## 製造システム…住友重機械

### 自動車ボディ・フレームの大幅な軽量化を実現する製造システムの評価設備が完成

住友重機械工業(株)(別川俊介社長)は、開発を進めていた自動車ボディ・フレームの製造システム(STAF)の評価設備を完成させ、2017年9月20日に竣工式が行われた。

STAF (Steel Tube Air Forming) は、鋼管をプレス機の金型にセットし、「通電加熱→高圧空気注入→成形→焼入れ」の工程で成形加工するシステムである。フレームを組み立てる際に不可欠なフランジ(つば状の部品)を、フレームと一体で成形できることが特長で、従来工法のようにフランジを後から溶接で接合する必要がないため、フレーム剛性の向上、工程の簡略化が可能になる。



自動車ボディ・フレームの製造システム(STAF)の評価設備

さらに、フレームの剛性を高めることで、材料の厚みを薄くすることも可能で、従来の構造と比較して約30%の軽量化効果が得られる。

すでに車体部品への適用に向けて自動車メーカーと検討を開始しており、2018年度からの車体部品適用化に向けた設備の導入を目指している。住友重機械は、STAFを次世代に向けた成長事業として位置づけ、2024年に100億円の売上を目指している。



シンプルな製造工程を実現させている

## 話題のニュートラック新製品情報・新情報

## 創立100年…横浜ゴム

### 横浜ゴムが創立100周年を迎えさらに信頼される企業としての成長を…

横浜ゴム(株)は2017年10月13日に創立100周年を迎えた。100年にわたり、同社の発展を支えてきたユーザーをはじめ、すべてのステークホルダーの方々に心より感謝するとコメントした。

横浜ゴムは1917年10月13日、横浜で創業。その後

の100年は困難と挑戦の歴史であり、創立直後の関東大震災や第二次世界大戦で2度工場を消失しながらも再建し、その後の40年の不況、バブル崩壊、リーマンショックなどの厳しい社会情勢も不屈の精神で立ち向かい乗り越えてきた。そして創立から脈々と受け継がれる技術の研鑽と時代を“先



横浜ゴム創立100周年のロゴマーク

駆ける”商品を次々と世に送り出すことで事業を拡大し、今は社員数25,000人のグローバル企業に成長している。

100年の中での横浜ゴムの代表的な“先駆け”は、日本初のコードタイヤ「ハマタウン・コード」(1921年)とスノータイヤ「Y-29」(1954年)、日本のラジアルタイヤ時代を切り拓いた「G.T. スペシャル」(1967年)、スポーツラジアルという新ジャンルを立ち上げた「ADVAN HF」(1978年)、環境性能をメインテーマとした「エコタイヤDNA」(1998年)などがある。また、早い段階からタイヤに特性を持たせてカテゴリー分けする「ブランド戦略」(1978年～)を展開している。タイヤ以外にも船の接舷に使用する大型空気式防舷材(1958年)、国

が初めて定めた耐久試験(JIS A5757)の最高レベルに唯一合格した建築用シーリング材(1975年)、ヘッドスピード理論など科学的なアプローチを導入したゴルフブランド「PRGR(プロギア)」(1983年)など業界初の商品を数多く開発している。

横浜ゴムは100年に渡って受け継がれてきた先進的な商品開発力と世界トップレベルの技術力をさらに磨くと共に、次の100年も創業の精神を忘れることなく挑戦し続け、世界中のユーザーに信頼される企業として成長し続ける、としている。



横浜ゴムは高品質なタイヤを市場に投入し続けている。写真は最近発売されたピックアップ向けマッドテレインタイヤ

## ジョロダローラースケート&レール

# Joloda

ジョロダと呼ぶのはジョロダ社製品だけ!



### 〈ジョロダの特色〉

- ・LowリフトとMAXの2種類があります。
- ・Lowリフトは従来からの構造であり堅牢。(2500kgの物を持ち上げることが可能になっています。)
- ・MAXは上昇高がLowリフトより40%程高く上がるように設計されています。

### 〈注意〉

- ・ジョロダローラースケートは専用のレール上でお使いください。
- ・ジョロダローラースケートの前後には緊急用ブレーキ装置が付いております。システムの架装に際しては、固定型及び伸縮自在型ストッパーを取付けられることをおすすめします。



イギリスでデザインされ、製造されたジョロダローラースケート及びレールは世界中で使用されています。

## 日本ボディーツ工業株式会社

URL <http://www.nihonbody.com>

本社 06-6458-5151 東京支店 045-715-1211  
西日本支社 0949-33-3000 北関東支店 0270-63-1811  
北海道支店 0133-73-0234 中部支店 0572-54-0800